様式S-1b

大型計算機共同利用申請書（B大型研究）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日

　　　東京大学地震研究所長　殿

（代表者〕

職　名

所属機関・部局名

住　所

電　話

E-mail

下記のとおり大型計算機共同利用へ申請します。

記

研究課題名：

研究概要：

希望利用計算システム：　□Wisteria-O □Wisteria-A

希望計算資源量（トークン）：　　　　　　　（ノード時間積）

\*1課題あたり8万〜25万トークン程度を目安にご記入ください。

希望並列ファイルシステム使用量：　　　　 （TB）\* 希望に添えない場合があります。

研究分担組織

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 所属機関 | 職名 | アカウント希望\*1 |
| （代表者） |  |  |  |
| （分担者） |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| （所内担当教員） |  |  |  |

\*1 アカウント希望について、〇、×のいずれかをご記入ください。代表者は管理上必ずアカウント作成が必要です。

※1名～10名程度のグループで申請することが可能です。

※所内担当教員の選任にお困りの場合には、本研究所准教授 鶴岡弘 (tsuru＠eri.u-tokyo.ac.jp)までご相談ください。

※大学院進学予定の学部生は大学院を記載し、職名に進学予定と追記してください。（例：大学院生（進学予定））

※利用アカウントについては、希望しても認められない場合があります。代表者の利用アカウントが情報基盤センターで認められない場合は、課題自体が採択されません。

１．算出基準の見積根拠

(Ex.) ○○計算 ○○ノード ○○時間 x ○○回

|  |
| --- |
|  |

２．研究の目的と意義

（研究の目的と意義を大型計算機を利用する理由と合わせて、記載してください。）

|  |
| --- |
|  |

３．研究内容

（本課題で何をどこまで明らかにするかを含め、具体的に記入してください。また、研究分担者が複数いる場合には、それぞれの研究者の役割についても、記載してください。また、大型計算機の具体的な利用計画、計算コードの開発状況なども示してください。文献や研究成果を引用する場合には、媒体名（雑誌名、会議名、doiなど）も併せて記載いただくようお願いいたします。）

|  |
| --- |
|  |

４．期待される成果

（本課題が採択された場合に期待される成果を記入してください。）

|  |
| --- |
|  |

５．大型計算機を利用する必要性

（EICシステムでは達成できず、情報基盤センターのスーパーコンピューターシステムを用いることによって達成可能な研究であることを、目標とする計算規模・時空間分解能・計算回数・計算時間などの観点から具体的に記入してください。利用する計算プログラムの並列計算におけるスケーラビリティについても記載してください。）

|  |
| --- |
|  |

６．申請課題に関連するこれまでの成果と実績

（本申請課題に関連してこれまで発表した論文、報告書等の一覧を記入してください。審査の際の重要な参考となります。成果の発表がなされた媒体名（雑誌名、会議名、doiなど）も併せて記載いただくようお願いいたします。）

|  |
| --- |
|  |

７．大規模計算を用いたこれまでの実績に関する具体的内容および並列化サポートの必要性

（情報基盤センターのスーパーコンピューターシステムあるいは他のシステム（EICシステムを含む）での大規模計算の実績の内容について、文章で具体的に記載してください。10名以上の研究分担者がいる場合には必須項目となりますので、各分担者の実績・役割と関連させながら記載してください。また該当しない場合でも、任意で記載いただいてもかまいません。また、情報基盤センターでの並列化サポートを希望する場合にも、その必要性と、大規模計算に関するこれまでの実績や準備状況をこの欄に具体的に記載してください。）

|  |
| --- |
|  |

※本共同研究の助成を受けた研究成果を論文等に発表する際には、必ず、東京大学地震研究所共同利用の助成および東京大学情報基盤センターの大型計算機を利用した旨の謝辞記載をお願いいたします。

（記載例：課題番号｢20XX-S-B101｣）

【英文】：下のいずれか

・This study was supported by ERI JURP 20XX-S-B101 in Earthquake Research Institute, the University of Tokyo and was conducted using the FUJITSU Supercomputer PRIMEHPC FX1000 and FUJITSU Server PRIMERGY GX2570 (Wisteria/BDEC-01) at the Information Technology Center, The University of Tokyo.

・This study was funded by Earthquake Res., Inst., the University of Tokyo, Joint Research program 20XX-S-B101 and was conducted using the FUJITSU Supercomputer PRIMEHPC FX1000 and FUJITSU Server PRIMERGY GX2570 (Wisteria/BDEC-01) at the Information Technology Center, The University of Tokyo.

【和文】：本研究は東京大学地震研究所共同利用(20XX-S-B101)の援助をうけました。また、東京大学情報基盤センターの大型計算機を利用して実施しました。